
静寂

ポテトバサー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

静寂

【Nコード】

N27650

【作者名】

ポテトバサー

【あらすじ】

短いので気軽に読んでみてください

休館になってしまう未来の図書館のお話。

五作目です。

(前書き)

久しぶりの更新です。
短いので気軽に読んでみて下さい。

私は図書館で働いている。図書館は小高い丘にあり大きな窓が特徴的だ。その大きな窓からの景色は素晴らしいもので、本ではなく景色を眺めに来る人もいるほどだ。同じデザインで統一された街並み、その奥には抜けるような青と吸い込まれるような青が続いている。だがここは図書館、書物に関しても素晴らしい。数千万の書物が保管されている。歴史的に価値のあるものから近代文化のものまである。全盛期には多くの人々が本と景色のために足を運んだ。しかし、300年ほど前から人足は少なくなっていったようだ。

「最後の利用者が来てからもう9ヶ月だ」

「ええ、それも散歩中のご老人がトイレを借りに来ただけでしたからね……」

「時代というやつかな。今さら本を読む人間はいないだろう……」

「そうですね…… まあ、後のことは彼にまかせましょう」

先輩方は私のほうを見る。

「うむ、そうだな。しかし、君も珍しい奴だ。退役してここに来るとは…… 他に何かあったらうに」

私にとっては先輩方のほうが、現代では珍しい『気さくな人』だった。

「いえ…… 静かな場所で仕……」

「ああ！なるほど、銃声に爆音に悲鳴…… そういったものにウンザリなんだな？」

「そういうことだったのか…… いろんなタイプがいるもんだな。まあそれはともかく、後のことはよろしく頼むぞ？」

「了解しました」

「了解とは元軍人らしいな！ がははは！」

それから私は一人で働いていた。私の仕事は、この図書館の書物を全て電子化することだった。各書物の要点だけをまとめて協会に送らねばならなかった。

「…………… 送信が終わったようだ」

あの日から長い年月が過ぎ去った。そして今、最後のデータを送信した。本当ならば全てのデータを整理することは不可能なのだ。世界中の作家が新作を書き、出版社が発行するからだ。だが今は何一つ発行はされてはいない。人からペンへ、ペンから紙へというサイクルは絶たれ、人から電子のサイクルに移行した。

あらゆる電子化は人としての能力を低下させていった。外出せずつも家の中で全てが出来てしまう時代だ。コミュニケーション能力は低下し対人関係が築けず、勘違いのままに合理化は進み、無関心、無感動は人々の心に巣を作ってしまった。

「ピッ！ ピッ！ ピッ！」

私と同じ仕事をしている仲間からメールが届いた。彼の担当する

図書館も残り2冊となってしまったらしい。私は何の気なしに屋上へと出た。

「ふう……………」

美しかった街並みは見る影もなくなってしまっていた。先の世界大戦後、皮肉なことではあるが世界は平和になっていた。平和を手にした世界、人々だったが、戦争に奪われたものは大きかった。感性、個性、意欲そして心………… 人として大切なものを、人は戦争の火種としてしまった。戦争に奪われたと言ったが、人々は平和を守る為にそれらを戦場に置いてきたのかもしれない。

「……………」

外だというのに何の音も聞こえてはこない。人々は外へではなく内に向かっていった。先人達がなぜ本を書いていたのか、彼らには理解出来なかった。目が覚めたら朝食を取り、時間を適当に潰し、昼になれば昼食を取り、時間を適当に潰し、夜になれば夕食を取り、寝る。それだけを繰り返す人々に理解できるはずがなかった。

私は館内に戻る。ゆっくりと階段を下り館内の中央に立ち、淋しげに辺りを見回した。それから受付のカウンターの席へと静かに腰を下ろした。

「ピーッ！ ピピッ！」

今の音は館内中の鍵をロックしたという合図だ。それから私は館内のあらゆる照明も消した。私のする仕事は全て終わった。

「……………」

最後の日に私はふっと思った。人類に明日は、未来は訪れるのだろつかと。まあ、私のようなロボットには関係ないのだが……………

ロボットは停止し、そこにあるのは静寂だけだった。

(後書き)

読んで下さってありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2765o/>

静寂

2011年10月7日15時14分発行